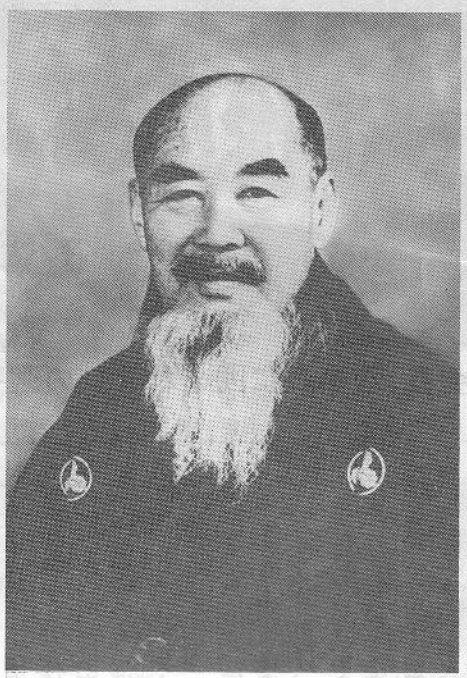
弓道いばらき

昭和63年3月第11号

発行所　東海村村松1292－2
茨城県弓道連盟
電　話　(0292－82－3580)

中野慶吉名誉会長御逝去



全日本弓道連盟、茨城県弓道連盟名誉会長、範士十段、中野慶吉先生には昭和六十二年十一月二十二日午前八時四十分逝去されました、行年八十五才、先生のご冥福を心よりお祈り申しあげます。

＊経歴及び弓歴

明治三十五年四月十日生まれ
大正九年県立太田中学校卒業
大正十三年中野組石材株式会社社長
県会議員、県教育委員長を歴任
大正九年大和流石井東左衛門師の門に入り、以後、阿波研造範士に師事
茨城県弓道連盟の結成
全日本弓道連盟設立、誕生にともない役員に就任
昭和三十二年範士
昭和三十九年九段
昭和四十二年全日本弓道連盟審議委員会委員
昭和四十四年全日本弓道連盟副会長
昭和四十九年全日本弓道連盟第五代目会長

先生には生前の功により、従五位勲四等旭日小綬章が贈られました。

慶吉先生が逝去されましたことは誠に痛惜にたえないところでございます。

中野先生は、弓道の真髄を極められ、最高峰たる範士十段、まさに日本弓道界最高の指導者として、全国の弓友から現在弓道の父と仰がれ、戦後弓道界の節目節目には必らず先生のご高徳が輝いております。

特にオリンピック東京大会での模範演技、弓道教本の発刊などは、その圧巻と言えるでしょう。

本県の弓界にあっては、戦後の混乱期は先生のご尽力で解決し、今日の基盤をつくり、真摯に指導にあたられ、今日の本県弓道界の隆昌あるは、全く先生のご高徳の賜ものであります。

しかし、私共は、この機会に先生のご高徳が一朝一夕になるものでなく、十三才からの厳しい修練の積み重ねにあることに想いをいたし、中野杯創設の趣旨たる先生のご高徳を指標として精進すべきことを誓うものであり、それが先生のご恩に報ゆる道であると信じます。

心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

名誉会長、中野慶吉先生の逝去を悼む

会長　関　宗　長

昨年十一月二十二日、日本弓界の重鎮であり、本県弓界の至宝である中野先生が亡くなられて、間もなく百日忌がくる。

ぽっかり穴があいたような空虚な日が過ぎていく

中野先生との思い出

監事　磯　静　波

昨秋、中野先生が亡くなられて、間もなく百日忌がくる。

ぽっかり穴があいたような空虚な日が過ぎていく

戦後四十年余、家族ぐるみで身内のようなおつき合いをさせて頂いていたから、先生のお姿がない昨今は何とも落着かない。

大正の初めから私の父は先生と深い御縁があったが、私はついぞお会いしたことがなかった。

先生との最初の出会いが何と、昭和十九年二月東部ニューギニア戦線で、先生の部隊の駐留地ハンサと云うところ。私共の部隊はすでに敗残兵そのものの、みじめな撤退行動の途中であった。

生きて帰れる望みなど全くない戦地で先生とお会いして、あゝこんな立派な方を、あたらこの地で亡くしてしまうのかと無念やるかたない思いでした。その後、先生の部隊も移動するようになり、私共の駐留地を通過する時、大荷物を背負っている先生を見て、食糧以外の物は捨てゝ体力の消耗を防ぐよう強く申しあげた。

終戦後、武装解除され集結させられた島で私の中隊を尋ねてこられた先生が、身軽になって移動するよういわれて生き残れたよ、と喜んでいたお顔が今もありありと思い出される。

それから二人で私の隊のドラム缶風呂に入り、郷里での再会を期して別れたのでした。あれから四十二年間、片時も離れない郷里でのおつき合い、それも終りました。

今は唯、先生の御冥福をお祈りする毎日です。(2・15記)

沖縄「海邦国体」近的競技に優勝して

会長、理事長に囲まれ喜びの選手団

成年男子

小泉民男（錬士五段）
関島　勝（錬士五段）
久保田　清（教士六段）
監督　引間　弘（錬士六段）

国土の南端、沖縄県那覇市において「海邦国体」をテーマに、「きらめく太陽ひろがる友情」をスローガンに、十月二十五日から二十九日迄、関東の気温十五度から空路一挙に三十度の真夏の太陽のもとで、成年男子は、近的競技で二年連続決勝戦に進出、そして本年は見事優勝を成し遂げることができました。これ迄、今は亡き中野慶吉先生に御指導を頂き、歴代会長、選手強化指導の諸先生のお蔭と、深く感謝する次第であります。

振り返って見ますと、国体本番に向けて、五月の予選会で練成会のメンバーに絞られ、八月末迄は、強化部がセンターとなって、意欲的な練成が進められました。その中で弓道の理念、国体の意義等についての講論もし、お互いのレベルアップを図るべく切磋琢磨最終選考会で、本番エントリーメンバーに絞られましたが、くしくも昨年と同じメンバーに決定致しました。

昨年は、近的の部で第二位の立派な成績を残しておりますが、選手の皆さんは、昨年の成績を忘れて、初心に返り「自標高めて果敢に挑戦、団結力で目指すは総合三位入賞」をキャッチフレーズにして、これ迄培ってきた技量に更に磨きをかけるべく日夜修錬してまいりました。

その結果が、近的優勝という快挙を成し遂げたものと思います。しかしながら、各県、技量の接近している中で一戦〳〵の闘いを顧みると、決して楽な闘いではありませんでした。何が他県よりも優っていたかと考えますと、基本練習の中から培ってきました根性とチームワークで勝っていたのではないかと思います。沖縄国体は、暑さとの闘いでもありました。連日三十度を越える気温と八十パーセントを越える湿度の中で、滞在八日間の緊張を保つことは、体調の管理が大変難かしいところでありました。幸い選手の皆さんベテランぞろいでしたので、調整の仕方は、選手の計画した通りに、ペース配分ができました。監督は遠くから選手の行動を見守るだけで、全面的に信頼していました。選手は、暑い中を本当によく頑張りました。

残念なことは、遠的で入賞できなかったことですが、これからの課題の一つとして、県弓連をあげて努力していかなければならないと思います。

選手の皆さんは、これ迄、いろいろな人との出逢いがあったと思います。こう言った立派な成績を残すことができましたのも、選手の皆さんの日頃の精進努力は勿論ですが、いろいろな人との出逢いの中で、ご指導を頂いた諸先生、諸先輩及び同僚の皆さん方のお陰であると思います。

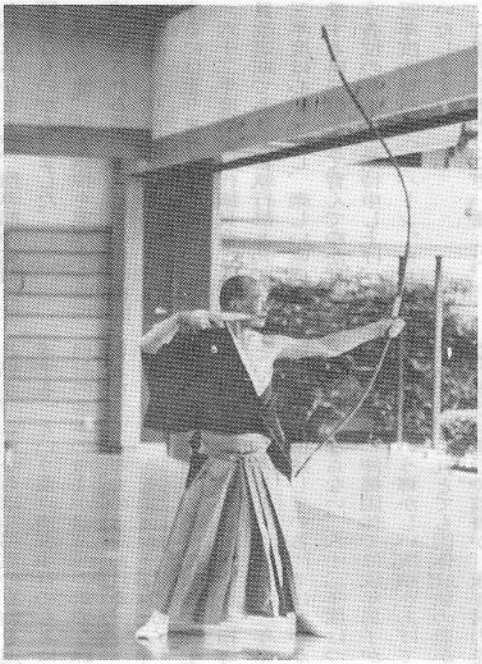
優勝の栄光は県弓連の皆様方の全員の力の結集だとも思うものであります。

本当に有難うございました。

沖縄国体の前半の遠的競技が終了する迄は、時折の風雨に見舞われる天候でしたが、後半の近的競技の時には、連日の好天に恵まれ、沖縄の皆様方の暖かい声援に励まされ、この栄光を手にできたことは、生涯忘れることができないと思います。

（引間記）

山口省吾範士御昇格おめでとうございます



山口省吾範士の略歴

明治41年　行方郡麻生町生町に誕生
昭和6年　東京歯科専門学校卒業
〃7年　現住所に開業
〃28年　弓道をはじめる
〃29年　日本弓道連盟　初段
〃32年　岡崎儀実範士に師事
〃35年　小笠原流入門
〃36年　全日本弓道連盟　三段
〃37年　〃　四段
〃39年　中野範士に師事
〃40年　全日本弓道連盟　五段
〃42年　〃　錬士
〃46年　〃　六段
昭和47年　窪田真太郎範士に師事
〃48年　全日本弓道選手権大会出場
〃51年　全日本弓道連盟　教士
〃51年　〃　七段
〃56年　全日本弓道選手権大会出場
〃58年　全日本弓道連盟　八段
〃62年　全日本弓道連盟　範士

（役職）

茨城県弓道連盟理事
茨城県弓道連盟審査部長

山口省吾先生の範士称号授与をお祝いして

副会長　矢吹三郎

「大器晩成」の言葉があり、齢八十になんなんとして弓道範士の称号を得られた山口先生は、まさにその人。私は先生を心から敬服し、併せてお祝いを申し上げる次第です。

先生の弓歴には、華やかな足跡を見ないとしても、旺盛な研究心と実行力が、射術の円熟となり、高邁な識見はお人柄と共に接する人を感化する卓越した指導力の発揮が、この度の栄誉であると信じ、私の尊敬する所以のものであります。

今なお、矍鑠として第一線に在り、豊富な修練体験をもとにご指導頂ける吾等県連会員は何と幸せであることか。

先生には、ご自愛専一、益々ご健勝で弓界のためご活躍下さるよう祈念して、誌面をお借りして祝詞といたします。

余裕の一年でありたかった

理事長　木村喜久雄

六十二年度の幕明け間もなく、理事長(正・副)はじめ総務担当者の辞任があり、浅学非才なる小生共が、これに代るスタッフとして事務局を担当することになりました。

何分にも突然な交代と、山積する六十二年度の事業計画に押し潰されそうな不安を抱いての十ヶ月間であったため、多くの皆さんに少からずご迷惑をおかけしてしまいました。しかし、その都度暖かいご声援をいただき、大過なく六十二年度のしめくくりの時を迎えることができたことは、深く感謝申し上げる次第であります。

さて、六十二年度はビックイベントとして当初より予定されていた、第四十二回ミニ国体（関東地区国体予選）、臨時中央審査会等の実施などがありましたが、他に山口省吾先生の範士ご昇格祝賀会、国体成年男子近的優勝祝勝会、そして本県弓連の父、中野慶吉範士のご他界など悲喜こもごもの突発的出来事なども加わり、まことに多彩な一年でありました。

しかし、役員のみならず、一般会員、中・高体育連盟関係者など、県内弓道人全般からのご協力を頂き、あらゆる行事が滞りなく消化されましたことはご同慶の至りであります。

特に関東八県の役員選手が来県し、腕を競い合ったあのミニ国体の開催が県外関係者より茨城県弓道連盟の資質を問われるものと自覚し、皆さんにもその運営に取組みを頂いた結果、あのような素晴らしい大会運営ができました。これは本県弓道に自信を生み、また一人〈〉の名誉を築いたと評価するところであります。

沖縄国体への出場は成年男子の単独出場ではありましたが、近的優勝を果し弓道茨城の名を惜しみなく天下に知らしめ県弓連の足跡を更に濃く印しました。来る六十三年度も亦、選手選考委員会、強化部等の体制を早期に固めていたゞき、成年男子、成年女子一、二部、少年男子、少年女子の五種別が揃って京都国体に出場が叶うことを期待するものであります。

今年度理事長職を預り、執行部一同と共に特に心がけましたことは、弓道茨城のよりよい活性化、強いては会員増の土壌づくりにありました。

それは、指導部、競技部、審査部、選手強化部、総務部の五専門部の業務分掌の確立、これに伴う予算の出納管理の実施でありました。このことは、各専門部のキャパシテーの範囲において県弓連組織末端からの、活性化に対する意見や要望に対し、可能な限り対応に努力できる体制を敷いたことを意とするものであります。

その評価は皆さんにお任かせすることではありますが、指導部の実績には顕著なものがありました。

以上の他、礼と挨拶を実践する県弓連、愛される県弓連としての執行機関の体制づくりを目指しましたが、満足するには至りませんでした。

六十二年度総会（代議員会）は、役員改選期であり、新執行部と共に六十三年度は心気一転し、楽しい県弓連、愛する県弓連として育んでゆかれるよう各位の英知にご期待申し上げ、六十三年度の執行部へ〝バトン〟をお渡しいたします。〃

ご協力有難とうございました。

指導部を担当して

指導部長　関根村夫

全日本弓道連盟が、教本に示す体配・射法射技の徹底を目指して地区中央講習を開始してから十余年の歳月が流れた「体配偏重」「的中なくして体配なし」などと批判きれながらも、こんにち、どこへ行っても習い覚えた体配・射法が通用し、違和感を覚えないまでに徹底してきたことは大きな成果だと思う。これからは「弓道の真髄を追求する」という重点指導項目のもとに弓射の基本の徹底が講習会の重要な課目となってくるものと思われる。

ところで、県連盟ではかねてから「底辺の拡大・内容の充実・実績の向上」等を目標として努力してきたが、指導という面からみると、ここ一～二年県連盟全体が低迷しているのではないかと思われてならない。六十二年度について言えば、沖縄国体では成年男子が近的優勝という輝かしい実績をあげてくれたが、これとても国体経験の豊かなベテラン選手や監督が、永年努力を重ねてきたことの結果であって、このことをもって県連盟の活性化が達成されたことの認識には立ち得ない。

中央審査においても、このところ合格者が極めて少なくなってきている。

昨年九月水戸で行われた臨時中央審査でも、県内から多数が受審したが地の利を生かしきれず一人の合格者に止まったのは淋しい気がする。

県連盟の活性化をはかるには、会員一人一人の自覚が必要なことは勿論であるが、それとともに地域における指導者の熱意と努力に負うところが大きいのではないだろうか。そのようなことから六十二年度では、直接指導にあたられている称号者を対象に指導力の向上と、範示し得る実力の養成を目的として指導者研修会を開催し、それなりの成果をあげることができた。

六十三年度からは県連盟行事として位置づけ、継続してゆきたいと考えているので称号者は全員、称号者不在の支部でも指導的立場にある方は参加して頂きたい。県内講習会は、県連盟主催のほか日立地区、鹿行地区、下館地区主催の講習会に講師を派遣したが、今後ともこのような講習会には可能な限り対応したいので是非計画して頂けるようお願いしたい。指導部を担当して二年、何をどのようにすればよいのか右顧左べんしてきたが、皆様からの御提言を頂ければ幸いと思います。

【高体連弓道専門部】

昭和六十二年度をふりかえって

理事　白石直之

本年度の行事も三月下旬の全国選抜大会（男子、笠間高校、女子、日立一高）を残して滞りなく終了できましたことは加盟各校の顧問並びに県弓連の先生方の御支援、御協力の賜と深く感謝いたしております。

本年度の行事の中で大きなものは、第三十一回関東高等学校弓道大会を県武道館で開催し、盛会裡に終了出来たことです。

六月六日(土)七日(日)の二日間、真夏を思わせる暑さの中、整然かつ厳粛な雰囲気は、さすが茨城と各都県関係者から賞賛させられました。

長期間にわたった準備、三日間献身的に御尽力下さった先生方に御礼申し上げます。成績においても、団体で男子下妻一高、女子土浦三高がそれぞれ三位、個人男子中村（土浦日大）二位桜井（下妻一）五位、女子小嶋（土浦三）二位に入賞と開催県としての面目を保つことができました。

御指導下さった先生方、実力を遺憾なく発揮した選手諸君に感謝いたします。

本年度の成績を振り返ってみると、関東大会では一応の成績を残すことが出来ましたが、全国大会、関東個人選手権、国体関東地区大会においては残敗であったことは残念である。県外大会での入賞を目指すための練習方法、精神面の強化を考えなければならないと感じております。

来年度は県内大会での充実を図るため地区予選の実施、真の実力校を県外大会に送るために県大会の充実を考えております。

現在高体連弓道専門部には六十七校が加盟、生徒数は二千名を越えています。この中から全国で活躍する選手が出ることを期待いたします。

昭和62年度　大会記録

Ⅰ．県内大会

(1) 一般の部

大会名	種別	第一位	第二位	第三位
全日本勤労者弓道選手権大会県予選	団体	航空自衛隊（百里）	東海村役場	日本原子力研究所(東海)
	個人	川崎　信(百里)	相巣博之(東海村役場)	加藤木　保(東海村役場)
県春季大会兼武道館親善大会	団体	筑波大A	筑波大E	筑波大D
	個人	広山　（筑波大）	多田修三（藤代）	小峰　（筑波大）
	女子個人	佐々木　（筑波大）	松田　（筑波大）	黒沢美紀（那珂湊）
	称号受有者	矢吹三郎（那珂湊）	小泉民男（原研）	平塚治男（麻生）
	団体優秀	下館C	筑波大A	那珂湊A
	個人優秀	久松正己（竜ヶ崎）	国谷保五郎（土浦）	村越憲一（大洗）
県民総体弓道大会兼弓道選手権大会	成年男子	楯　計司(日立セメント)	前野秀明（那珂湊）	伊東英治(日製多賀)
	成年女子	飯塚浩美（鹿島）	山口みち（友部）	中島せつ（大子）
	称号受有者	川崎安之（勝田）	沢田恒弥（土浦）	関島　勝（原研）
遠的大会	成年男子	小泉民男（原研）	久保田　清（藤代）	関島　勝（原研）
	成年女子	飯塚浩美（鹿島）	黒沢美紀（那珂湊）	斉藤秀子（勝田）
第11回中野杯争奪弓道大会	一般男子	関　正美（県庁）	前野秀明（那珂湊）	吉田　（阿見）
	一般女子	高橋輝子（三和）	石川紀子（原研）	石川亜耶子（石岡）
	称号受有者	久保田　清(藤代)	小泉民男（原研）	市毛道子（水戸）

(2)中学・高校の部

大会名	種別	第一位	第二位	第三位
県高校春季大会兼関東大会県予選	男子団体	下妻一	清真学園	水戸一
	女子団体	土浦三	緑　岡	水戸二
	男子個人	浅野政信（土浦日大）	青木利治（水戸一）	長沢　学（下妻一）
	女子個人	秋山知賀子(土浦日大)	初見知桂子（境）	馬目理恵子（水戸三）
県民総体弓道大会	高校男子団体	鉾田一	清真学園	玉造工業
	高校女子団体	下館二	日立一	那珂湊一
	高校男子個人	増子　敬（鉾田一）	酒井一彦（下館一）	大沼紀博（玉造工）
	高校女子個人	長沼ゆみ（下妻一）	早瀬恵美子（下館二）	中島こずえ（日立一）
	中学男子団体	東海南中	内原中	愛宕中
	中学女子団体	内原中	竹来中	阿見中
	中学男子個人	沢井　（東海南）	寒藤　（清真）	山本　（内原）
	中学女子個人	鈴木　（内原中）	内田　（阿見）	広木　（水戸二）
関東個人選手権大会県予選会	高校男子個人	谷中　勤（下館一）	吉沼　優（鹿島）	海老根伸（太田一）
	高校女子個人	大塚崇代（土浦二）	佐々木裕美（土浦三）	大木美江子（下館一）
県高校弓道新人大会	男子団体	笠間B	境　A	鉾田一B
	女子個人	日立一A	北総A	竹園A
	男子個人	吉田　貴(水海道一)	片倉弘幸（小川）	大内健司（笠間）
	女子個人	長谷川智美（鉾田二）	深野明子（竹園）	篠崎直美（日立一）
第11回中野旗争奪弓道大会	高校男子団体	玉造工業	水海道一	鹿島．鉾田一
	高校女子団体	日立一	江戸川	鉾田二，境
	中学男子団体	阿見中	清真学園	竹来中，茨城中
	中学女子団体	土浦一中	明光中	大島中，内原中
中学新人弓道大会	男子団体	竹来中	清真学園	茨城中
	女子団体	竹来中	内原中	東海南中
	男子個人	小武内　（清真）	神谷　（清真）	大和田　（茨城）
	女子個人	潮田　（愛宕）	水野　（内原）	鈴木　（竹来）

Ⅱ．県外大会

○第42回国民体育大会（那覇）

成年男子の部　近的優勝　小泉民男（原研），関島　勝（原研），久保田清（藤代）

○第31回関東高校弓道大会

男子団体　第三位　下館一　　女子団体　第三位　土浦三

男子個人　第二位　中村（土浦日大）　　女子個人　第二位　小嶋（土浦三）

〃　第五位　桜井（下妻一）

「正射必中」

明治弓道会新年射会

錬士六段　五来　清

昨年の新年射会は七十九才、八十五才の高齢者による射詰決勝戦でしたが的中八回ののち決定するという、本当に正射必中と申しあげられる、立派な聖射でした。

本年は余興的で金的(4cm)銀的(4cm)板割(10cm)でしたが、すべて一手の中におちました。射会に於て余興的全部が的中する事はめずらしい事です。全部射とめることができたことは本当に無欲の聖射であった、正射必中とはこのことだろうと今後一層の修錬を重ね、健康で長寿をたもち、弓道振興の為に努力を誓い合い新年の祝杯を重ね散会しました。

射詰優勝　田原トシ教士
競射優勝　山口省吾会長
金　的　石川籠次四段
銀　的　阿部政記錬士
板　割　仲野智善教士
　　武藤生三錬士
（出場者　十六名）

活動報告

四段　小林勇三

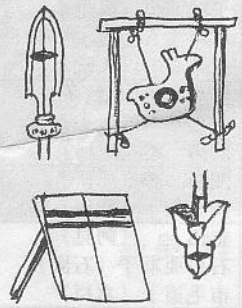
地方弓道熱の高まる中で、日立地区では、早くも終戦直後に発足した「県北弓道振興会」（都司一男会長）が、年間三期に分けて、会場を輪番制に、弓道大会を開催、常時一般高校生を含めて、一〇〇名を超える盛会振りで、今春は一一〇回の行事歴史を有しています。

参加層の中には、国体をはじめ県外大会出場選手など、激戦の王者？が多く、それに続けと若年層にパワー刺激剤になっているものも否めない事実であり、県弓道界躍進の一翼を担って、日夜練習に精進しております。

一方、一昨年春弓連とタイアップしてスタートした「日立地区委員会」（川又正昭会長）も、底辺の拡大と射技向上を目指して、年二回（三段以下と四段以上に分ける）、県弓連より、山口・矢吹両範士先生ほかを、お招きして講習会を催し、地区の老若弓友の弓道熱は一段と高まっている昨今であります。

また昨秋、高令者弓道会（鎌田　利会長）も発足しました。

当地区弓界に各位の御協力と御指導を心よりお願いいたします。



総務だより

昇段、昇格おめでとう

範士　山口省吾（麻生）
教士　荻原裕一（友部）
教士　久保田清（藤代）
錬士　中村洋一（常陸太田）
錬士中　嶋鉄郎（境）
錬士山　村　晋（百里）
七段　飯塚左右二（取手）
六段白　石直之（水戸）
六段山　村　晋（百里）

表彰おめでとう

◎全国、国際競技者優勝（褒状）知事
小泉民男　関島　勝
久保田清　引間　弘

◎総合第三位　（褒状）体　協
（団体）小泉　関島　久保田　引間

◎優秀指導者　（褒状）体　協
天　冴子

お知らせ

審査請求書送付及び審査料送金の方法について（改正）

標記について、下記のように改めます、これは審査料管理上のトラブルの防止と審査事務の省力化などの目的によるものです、今後は現金同封（現金書留等）による審査請求書の送付は受理出来ません。

1、A審査及びB審査請求書は支部長及び学校顧問が押印の上、一括して総務部事務局へ送付のこと、また連合審査及び県外審査請求書は受審者本人が直接総務部事務局へ送付のこと。

送付先
〒316日立市金沢町5－12－6（宮崎康美方）茨城県弓道連盟総務部事務局

2、審査料は下記郵便局振替口座へ払い込むこと、上記送付人は審査料を一括して審査請求書送付時に払込の手続きをすること。

口座番号　宇都宮　8－3595
加入者名　茨　弓　連　総　務

3、審査請求書の提出期限は次の通り

審査A｝連合
審査B｝県外　実施日15日前消し印迄
　　実施日50日前消し印迄

※（注意）期限内厳守のこと、期日後は受理いたしません。

編集委員

編集長　宮崎康美
介川　達
長谷川富次
石川紀子
木村喜久雄

編集後記

今年をふり返って思うとき、時の流れを痛感する。

会報も十一号を発行することが出来た、県内の弓道人口も三千人をこえるのではないだろうか、若い人達がどんどん成長して組織を引っぱってゆかないと組織は形骸化し老化する。

この会報も会員みんなで育てないと魅力のないものになろう。

みんなで参加し作ってゆくところに充実がある。

創刊号で関会長が示した、この会報が、本県弓道人の友となり、向上、反省、激励、親睦、事業推進の糧となることができれば幸です、これを受けて中学生、高校生、みんなで色々と記事を書いて（一行十七字のもの）原稿を送付してほしい、記事のない会報を出すのは苦しい!!　初めての経験であった。

今後とも会員の支援を心からお願いいたします。

原稿送付先
〒310　水戸市酒門町4271－12
介川　達